

2019年3月期 第2四半期決算説明会

2018年11月2日

 丸文株式会社

© 2018 MARUBUN CORPORATION

本日説明のポイント

■ 2019年3月期 上期業績

売上高 1,664億円（前年同期比 2.0%減）
経常利益 6億円（前年同期比 53.0%減）

■ 2019年3月期業績見通し

売上高 3,250億円（前年同期比 6.5%減）
経常利益 34億円（前年同期比 18.2%減）

■ 業績予想を修正

- 売上高 通信機器向け半導体の需要増
- 経常利益 為替変動の影響
産業機器向け半導体の需要減や新規ビジネスの立ち上げ遅れ

2019年3月期 第2四半期 連結決算の概要

© 2018 MARUBUN CORPORATION

第2四半期の決算についてご説明します。

2019年3月期 上期 連結決算サマリ（前年同期比）

■売上高 1,664億円（前年同期比 34億円減、期初予想比 64億円増）

- デバイス事業 TV・PC向けメモリーICの減少
- システム事業 医用機器、航空宇宙機器の増加

■営業利益 25億円（前年同期比 8億円増、期初予想比 13億円増）

- 売上総利益 前年度末に円高進行で計上した外貨建て在庫評価損の戻し入れ

■経常利益 6億円（前年同期比 7億円減、期初予想比 4億円減）

- 営業外費用 今年度期初からの円安進行による外貨建て債務の為替差損

■四半期純利益 1億円（前年同期比 2億円減、期初予想比 3億円減）

連結売上高は、前年同期に比べ34億円、2.0%減の1,664億円となりましたが、期初予想の1,600億円からは64億円、4.0%の増加となりました。

利益面では、前年度末の円高進行、今年度に入ってから円安進行が営業利益、経常利益に大きく影響しました。

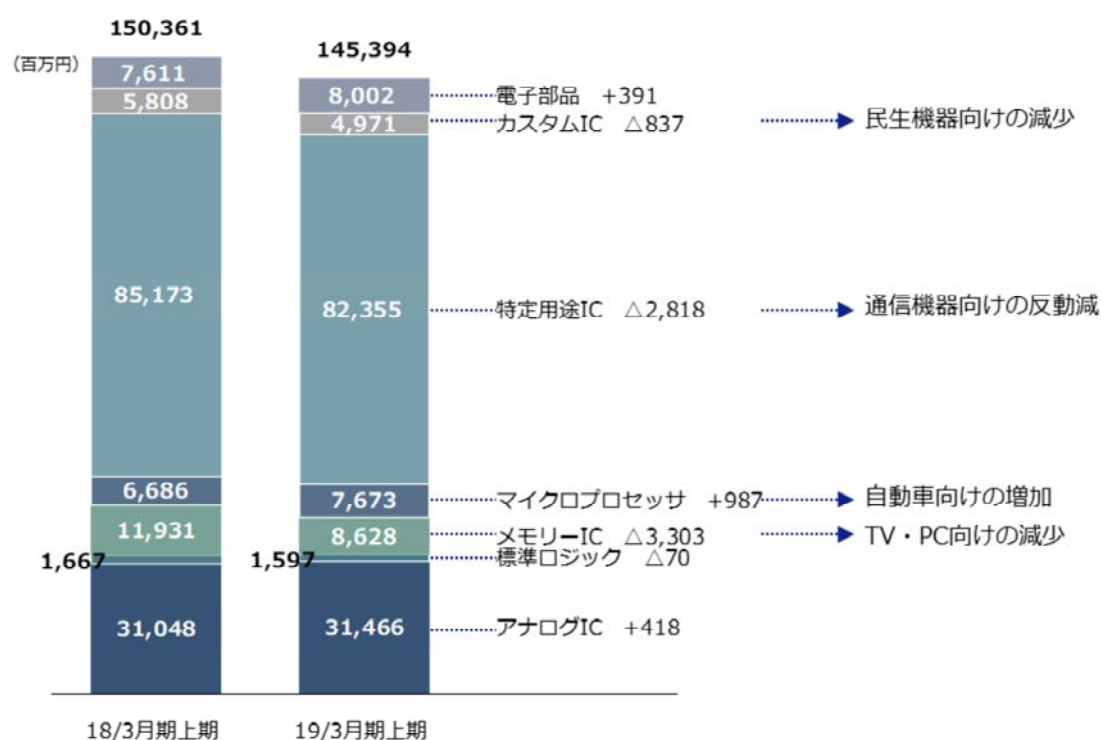
営業利益については、前年度末に円高進行で計上した外貨建て在庫の評価損を今年度戻し入れたことなどにより売上総利益が押し上げられ、前年同期比8億円増となりました。

一方で経常利益は、今年度期初からの円安進行による外貨建て債務の決済や時価評価に伴う為替差損を計上したことにより、前年同期比7億円減となりました。

2019年3月期 上期 業績サマリ

(百万円)	18/3月期 上期		19/3月期 上期			前年同期比		期初予想比
	実績	構成比	予想	実績	構成比	増減額	増減率	増減額
売上高	169,875	100.0%	160,000	166,434	100.0%	△ 3,441	-2.0%	6,434
デバイス事業	150,361	88.5%	139,000	145,394	87.4%	△ 4,967	-3.3%	6,394
システム事業	19,513	11.5%	21,000	21,040	12.6%	1,527	7.8%	40
売上総利益	10,272	6.0%	10,200	11,382	6.8%	1,110	10.8%	1,182
販管費	8,518	5.0%	8,950	8,807	5.3%	289	3.4%	△ 143
人件費	5,159	3.0%	-	5,292	3.2%	133	2.6%	-
その他	3,358	2.0%	-	3,514	2.1%	156	4.6%	-
営業利益	1,753	1.0%	1,250	2,575	1.5%	822	46.9%	1,325
営業外収益	319	0.2%	250	296	0.2%	△ 23	-7.2%	46
営業外費用	757	0.4%	480	2,254	1.4%	1,497	197.8%	1,774
経常利益	1,314	0.8%	1,020	617	0.4%	△ 697	-53.0%	△ 403
特別利益	0	0.0%	-	23	0.0%	23	-	23
特別損失	211	0.1%	-	17	0.0%	△ 194	-91.9%	17
親会社株主に帰属 する四半期純利益	390	0.2%	465	133	0.1%	△ 257	-65.9%	△ 332
期末従業員数 (名)	1,408	-	-	1,350	-	△ 58	-4.1%	-

2019年3月期 上期 『デバイス事業』 品目別売上高



MARUBUN CORPORATION

© 2018 MARUBUN CORPORATION

5

売上高について当社の2つの事業セグメント、デバイス事業、システム事業の順にご説明します。

デバイス事業の売上は、前年同期の1,503億円から1,453億円に50億円、3.3%減少しましたが、期初予想の1,390億円と比べると63億円、4.6%上回りました。

増加したのは当社が注力している自動車、産業機器向けの商材です。

自動車向けではマイクロプロセッサが増加し、産業機器向けではアナログICや電子部品が順調でした。

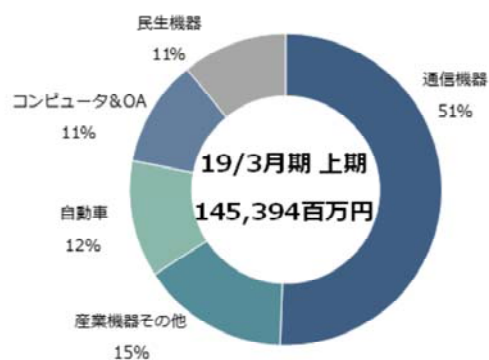
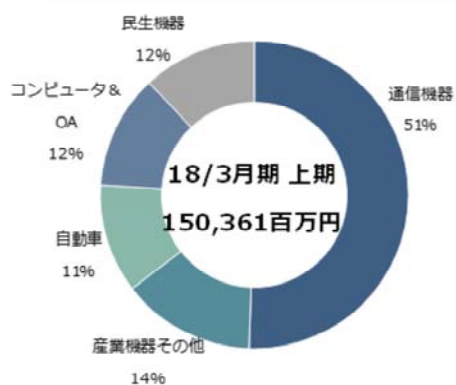
一方減少した項目は、メモリーICと特定用途IC、カスタムICです。

ここ数年、PCや民生機器向けは減少傾向であり、期初の予想通り、DRAMやフラッシュメモリ、カスタムICが減少しました。

前年度に好調だった通信機器向けの特定用途ICは反動減となりましたが、期初の見通しより上振れており、堅調な売上を維持しています。

2019年3月期 上期 『デバイス事業』 用途別市場動向

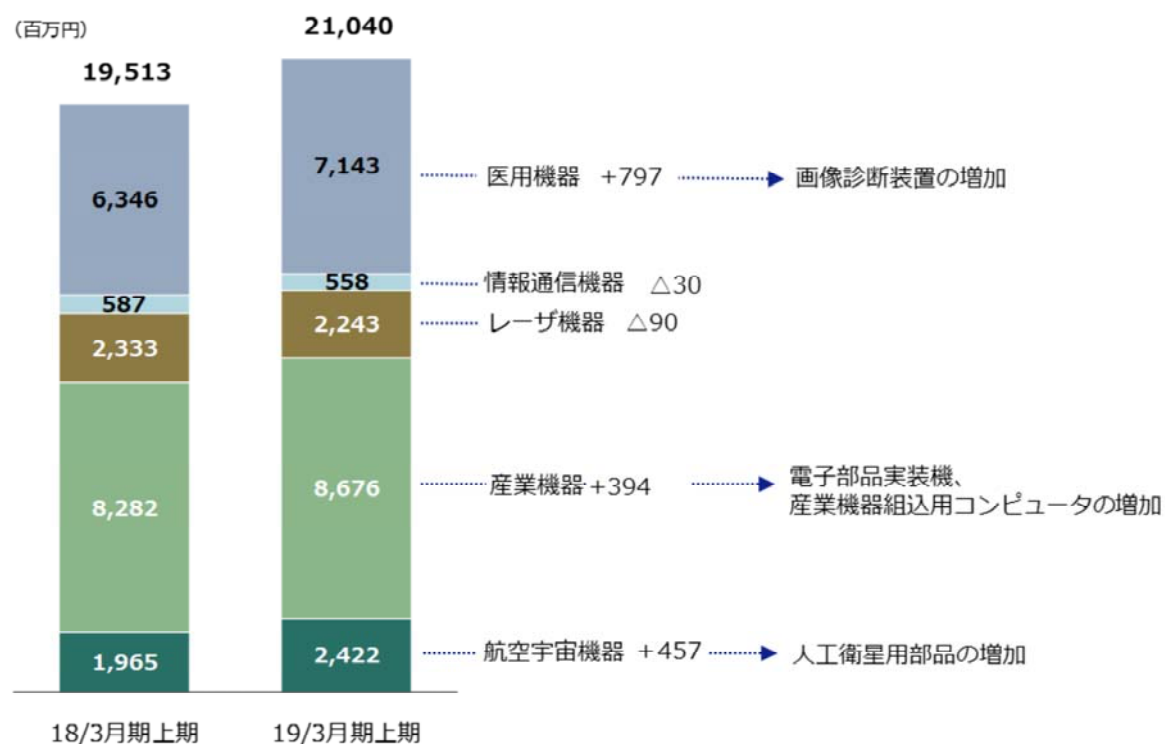
用 途	市 場 動 向
産業機器その他	➡ 工作機械などFA機器向けが増加
自動車	➡ 車内通信向けで増加
通信機器	➡ 通信機器向けが減少
コンピュータ&OA	➡ PC向けが減少
民生機器	➡ TV向けが減少



デバイス事業を用途別にご説明します。

シェアに大きな変動はありませんが、当社が注力している自動車・産業機器向けは、順調に増加しております。

2019年3月期 上期 『システム事業』 品目別売上高



MARUBUN CORPORATION

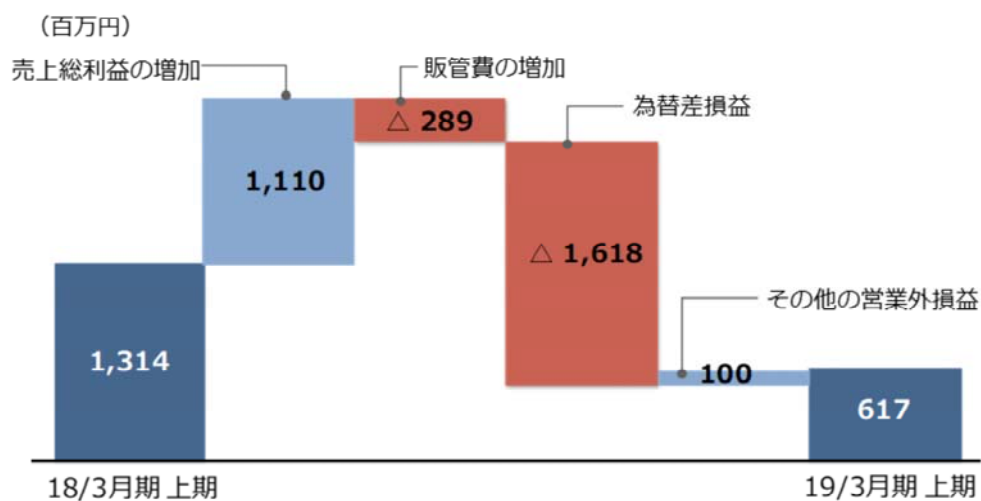
© 2018 MARUBUN CORPORATION 7

システム事業の売上は、前年同期の195億円から210億円に15億円、7.8%増加しました。この数値は期初予想通りで着地しております。

増加したのは、航空宇宙機器、産業機器、医用機器です。

航空宇宙機器は人工衛星搭載用部品、産業機器は電子部品実装装置や産業機器組込用コンピュータ、医用機器はMRIやCTなどの画像診断装置が増加しました。

2019年3月期 上期 経常利益の増減要因



売上総利益	前年度末計上の在庫評価損の戻し入れ、今年度期初からの円安による差益増 18/3月期上期：102億円 → 19/3月期上期：113億円
販管費	人件費・業務委託費の増加 17/3月期上期：85億円 → 18/3月期上期：88億円
営業外損益	為替差損の計上 17/3月期上期：差益6百万円 → 18/3月期上期：差損16億円

経常利益の増減要因についてご説明します。

売上総利益は、先ほど説明した前年度末に計上した在庫評価損の戻し入れに加え、今年度期初からの円安進行による外貨建て取引の差益増加により11億円増加しました。

販管費は、人件費や業務委託費などの増加により、2億8千万円増加しました。

営業外費用では、為替差損16億円を計上したのに加え、外貨建て借入の金利上昇により支払利息が2億円増加しました。

以上の結果、経常利益は6億円となりました。

2019年3月期 上期 貸借対照表の概要

(百万円)	18/3月期末 実績	18/3月期 上期末 実績	前期末比 増減額	主な増減理由
資産合計	135,706	137,315	1,609	受取手形及び売掛金 5,354
流動資産	122,297	123,569	1,272	商品及び製品 △ 6,943
固定資産	13,408	13,746	338	
負債合計	86,529	88,669	2,140	支払手形及び買掛金 1,886
流動負債	75,765	78,220	2,455	
固定負債	10,763	10,448	△ 315	
純資産合計	49,177	48,646	△ 531	

次に貸借対照表の概要をご説明します。

総資産は、前期末に比べ16億円増加しました。

受取手形及び売掛金の増加は、通信機器向け半導体の売上増加に伴うものです。

商品及び製品の減少は、売上増加に伴い半導体の在庫が減少したことによるものです。

負債については、前期末に比べ21億円増加しました。

これは主に、仕入債務の増加によるものです。

中期経営計画 事業戦略と重点施策

© 2016 MARUBUN CORPORATION

中期経営計画の進捗についてご説明します。

業界再編の動き

半導体メーカー

さらなる集約化の動き

エレクトロニクス商社

経営統合やM&Aが進む

半導体業界のテーマ

AI・ロボット・IoT技術

利用促進

多くのプレイヤーの参入

混沌とした状況

半導体業界では今年に入っても事業再編の動きが続いており、半導体メーカーでは、ルネサスエレクトロニクスがIDTを買収することが発表され、国内エレクトロニクス商社でも、加賀電子による富士通エレクトロニクスの買収や、UKCホールディングスとバイテックホールディングスの経営統合が発表されました。

また業界のテーマとしとしても、AIやロボット、IoTの技術が様々な分野で利用が進み、多くのプレイヤーが入り交って混沌とした状況にあります。

2016-2018年度 中期経営計画方針

2019年3月期を最終年度とする中期経営計画

業界再編への対応、
キャッチアップ

イノベーションへの
積極投資による
新規事業創造

資本効率の向上

持続的な成長の実現

この様に事業環境が変化し続けるなか、当社は、中期経営計画で、「業界再編への対応、キャッチアップ」、「イノベーションへの積極投資による新規事業創造」、「資本効率の向上」に取り組み、持続的な成長の実現を目指してきました。

『デバイス事業』 4つの取り組み



デバイス事業では、①「ベースビジネスの強化」、②「成長市場での事業強化」、③「新規商材の事業化推進」、④「グローバル展開の加速」の4つの取り組みを進めていますが、今年度上期の概況としましては、新規商材の立ち上げに遅れがあるものの、他の取組みは順調に伸長しております。

① ベースビジネスの強化

■ デマンドクリエーション活動の推進

- アナログ/ワイヤレスなどキーデバイスの販売体制拡充

■ 自動車市場でのソリューション開発の強化

- 自動運転/EV/ハイブリッド/ネットワークに注力
- 先進的サプライヤとの提携
 - ・ モーター制御用コントローラICの取り扱いを開始
- 点から面での提案活動を展開



Silicon Mobility社
モーター制御用コントローラIC

「ベースビジネスの強化」では、アナログやワイヤレスなどキーデバイスの販売体制を拡充し、デマンドクリエーション活動を展開しております。

注力市場である自動車市場向けでは、自動運転やEV、ハイブリッド車、ネットワーク接続などを注力分野として、先進的な技術を持つサプライヤとも積極的に提携し、ソリューションの開発に取り組んでいます。

今年9月には、フランスのSilicon Mobility社と代理店契約を締結し、ハイブリッド車やEVのモーターを制御するコントローラICの取り扱いを開始しました。

当社では特徴のあるソリューションをもとに、自動車製造に関わる企業だけでなく、関連するテクノロジーやサービスを開発・提供する企業も含めてマッピングし、点から面での提案活動を進めていく考えです。

① ベースビジネスの強化

■ 産業機器・マスマーケット市場に対する取り組み

- 専従組織を設置
- デジタルマーケティングを推進

■ 事業基盤の強化と経営の効率化

- KTLを丸文に統合
- 丸文セミコンの事業を株式会社トーメンデバイスに譲渡

さらに、こちらも注力市場である産業機器を中心としたマスマーケット市場に対しては、専従組織を設置し、競争力のあるTI社のアナログ製品に他のサプライヤ製品を組み合わせ、案件あたりの採用点数の増加を目指す取組みや、WEBサイトを用いたデジタルマーケティングによる提案活動を推進しております。

またこの10月には、100%子会社のケイティーエルを当社に統合する一方、同じく子会社の丸文セミコンの事業を株式会社トーメンデバイスに譲渡し、事業基盤の強化と経営の効率化にも取り組みました。

② 成長市場での事業強化

医療・ヘルスケア分野

MC10社

■ バイオセンサー

- フィットネスやウェアなどヘルスケア向けでも様々な企業と実証実験



IoT分野

Afero社

■ IoTプラットフォーム

- スマートロック等で採用促進



Cypress社

■ IoT向け無線関連製品

- 主力ビジネスに成長



「成長市場での事業強化」では、医療・ヘルスケアとIoTの分野で取り組みを強化しています。

医療分野では、MC10社のバイオセンサーの拡販と他商材の拡充に取り組みました。

バイオセンサーは、ヘルスケア向けでもフィットネスや競技、ウェアに関わる企業と実証実験を行っており、製品化に向けた取組みを加速させています。

IoT分野では、Afero社の強固なセキュリティを保つIoTプラットフォームの採用が、スマートロック向けなどで進んでいます。

また、一昨年より取扱いを始めたCypress社のIoT製品は、商権の拡大と商材の拡充により主力ビジネスのひとつに成長してまいりました。

③ 新規商材の事業化推進

従来の半導体販売とは違った 新しいビジネスモデルの立ち上げ

FINsix社

■ 豊田自動織機様と共同開発

- 自動車用インバータ

順調に進捗



Nanoramic Laboratories社

■ ナノカーボン製品を取扱い

- 高品質の熱伝導素材
- 耐熱性や強度に優れた小型キャパシタ



「新規商材の事業化推進」については、スタートアップ企業に対して投資も行ないながら従来の半導体販売とは違った新しいビジネスモデルの立ち上げに取り組んでおります。

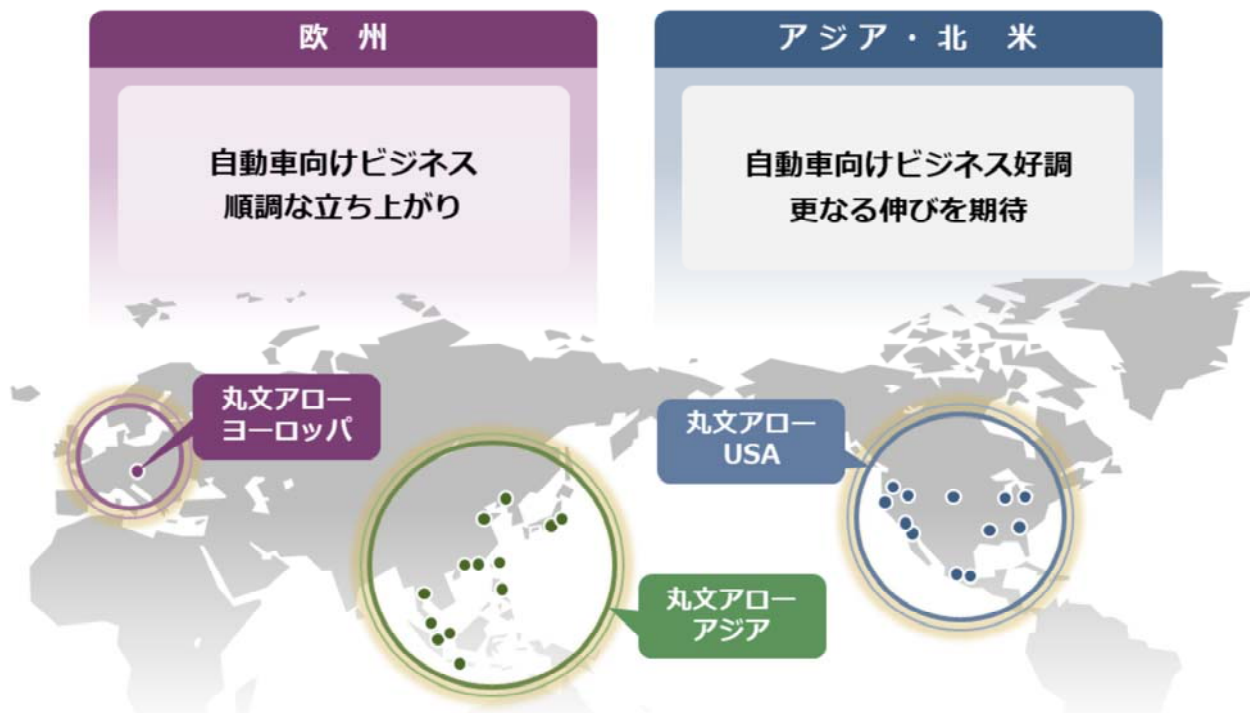
5月の説明会でもご紹介しましたが、電源小型化の技術を持つFINsix社の事業では、自動車のインバータ向けに豊田自動織機様と共同開発を行っており、順調に進捗しております。

また新規商材として、Nanoramic Laboratories社のナノカーボンテクノロジーを使ったソリューションの提供を開始しました。同社は、マサチューセッツ工科大学からスピンアウトして設立されたメーカーで、優れた熱伝導率の素材やキャパシタの製造を行っています。

9月に取り扱いを開始したばかりですが、既にいくつかの具体的なプロジェクトが進捗しており、ビジネスの早期立ち上げを期待しております。

冒頭に「新規商材の立ち上げに遅れがある」とは申上げましたが、この様に新規商材については、ユニークで事業化に期待が持てる商材の開拓とプロモーションを、今後も積極展開していく方針です。

④ グローバル展開の加速



MARUBUN CORPORATION

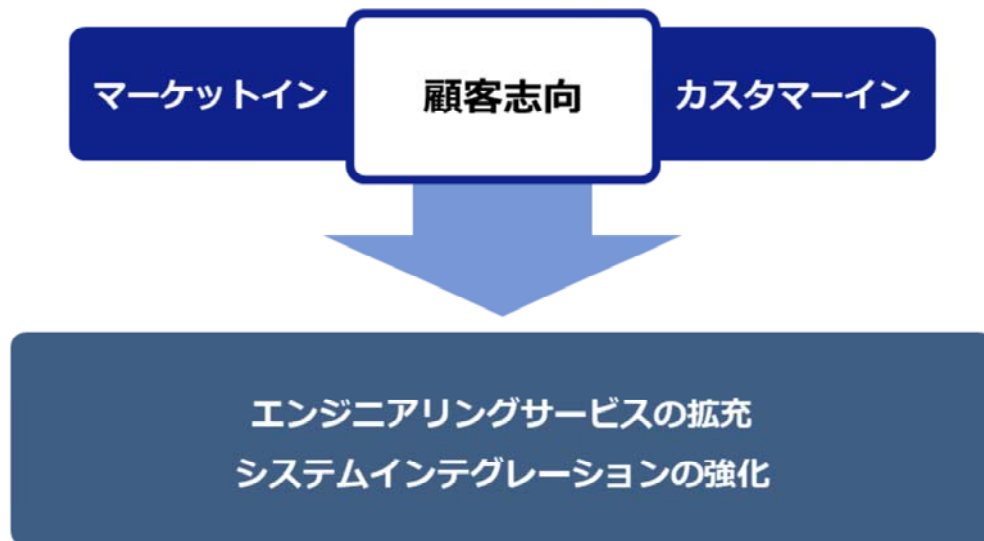
© 2018 MARUBUN CORPORATION 18

「グローバル展開の加速」では、北米での事業が順調に拡大しております。

丸文アローUSAでは、自動車向けビジネスが好調で、昨年度初めて売上高が2億ドルを超えましたが、今年度も更なる伸びを期待できる状況です。

また昨年より欧州における取組みを強化しておりますが、ハンガリーに開設した丸文アローヨーロッパでも、自動車向けビジネスで、順調に事業を立ち上げることが出来ました。

『システム事業』の取り組み



システム事業では、「マーケットインとカスタマーイン」の「顧客志向」をベースにして、「エンジニアリングサービスの拡充」や「システムインテグレーションの強化」に取り組んでおります。

『システム事業』分野別の取り組み

航空宇宙機器

- 人工衛星・ロケット向け高信頼性部品、コンポーネントの取り込みに注力



産業機器

- 車載・スマートフォン向け電子部品の検査装置・不良解析装置の販売に注力
- 産業機器向け組込コンピュータを拡販



ADLINK社
組込み用コンピュータ

レーザ機器

- 産業機器組込み用レーザと医療機器向け光源の拡販を推進



nLight社
組込み用半導体レーザ

「航空宇宙機器」では、政府の宇宙開発プロジェクトに参画する企業に対し、人工衛星やロケットで使用される高信頼性部品やコンポーネントの取り込みに注力し、大型案件を受注することができました。

「産業機器」では、車載及びスマートフォン用デバイスの品質向上のための検査装置や不良解析装置の販売に注力しております。また、組込コンピュータの産業機器向けへの拡販を推進しています。旺盛な需要に対して、サプライヤでの部材不足による供給遅延が発生しないように、迅速な手配や納期管理を行っています。

「レーザ機器」では、産業機器組込み用レーザと医療機器向け光源の拡販を推進しています。

『システム事業』分野別の取り組み

情報通信機器

- 5G移動通信システムの実用化に向け
キャリア・通信インフラメーカーへ積極販売
- Septentrio社の高精度GPS受信機を
自動運転や農機向けに販売開始



Septentrio社
高精度GPS受信機

医療機器

- 先端医用機器の商材開発
- エンジニア増強によるメンテナンスサービスの
拡充



「情報通信機器」では、5G移動通信システムの実用化に向けて拡大が見込まれる通信インフラ市場に対して、商材の拡充と大手キャリアや通信インフラメーカーを中心としたキー顧客への積極的な販売活動を展開しています。

上期には、新たにベルギーのSeptentrio社が製造する高精度GPS受信機の販売を開始しました。準天頂衛星みちびきに対応し、誤差数センチという非常に高精度の測位技術を利用し、自動車の自動運転や農業機器の遠隔操作などへの採用を働きかけています。

「医用機器」では、北陸や甲信越、東京それぞれのエリアごとの取扱商材の拡充に加え、シーメンスなど主要仕入先の機器メンテナンスの請負を推進しています。今後も人員増強とエンジニア教育を継続し、サービス品質の向上に取り組むとともに、この分野での先端機器の取扱いを進めてまいります。

2019年3月期 業績予想の概要

© 2018 MARUBUN CORPORATION

通期の業績見通しについてご説明します。

2019年3月期 業績予想サマリ

■売上高 3,250億円（前期比 225億円減、期初予想比 100億円増）

- デバイス事業 通信機器向けの減少、TV・PC向けメモリーICの減少
- システム事業 航空宇宙機器、レーザ機器、産業機器の増加

■営業利益 58億円（前期比 20億円増、期初予想比 11億円増）

- 売上総利益 前年度末計上の在庫評価損の戻し入れ、
今年度上期の円安による差益額の増加

■経常利益 34億円（前期比 7億円減、期初予想比 8億円減）

- 営業外費用 上期計上の為替差損の影響、支払利息の増加

■当期純利益 18億円（前期比 2億円減、期初予想比 7億円減）

通期の業績予想についてご説明します。

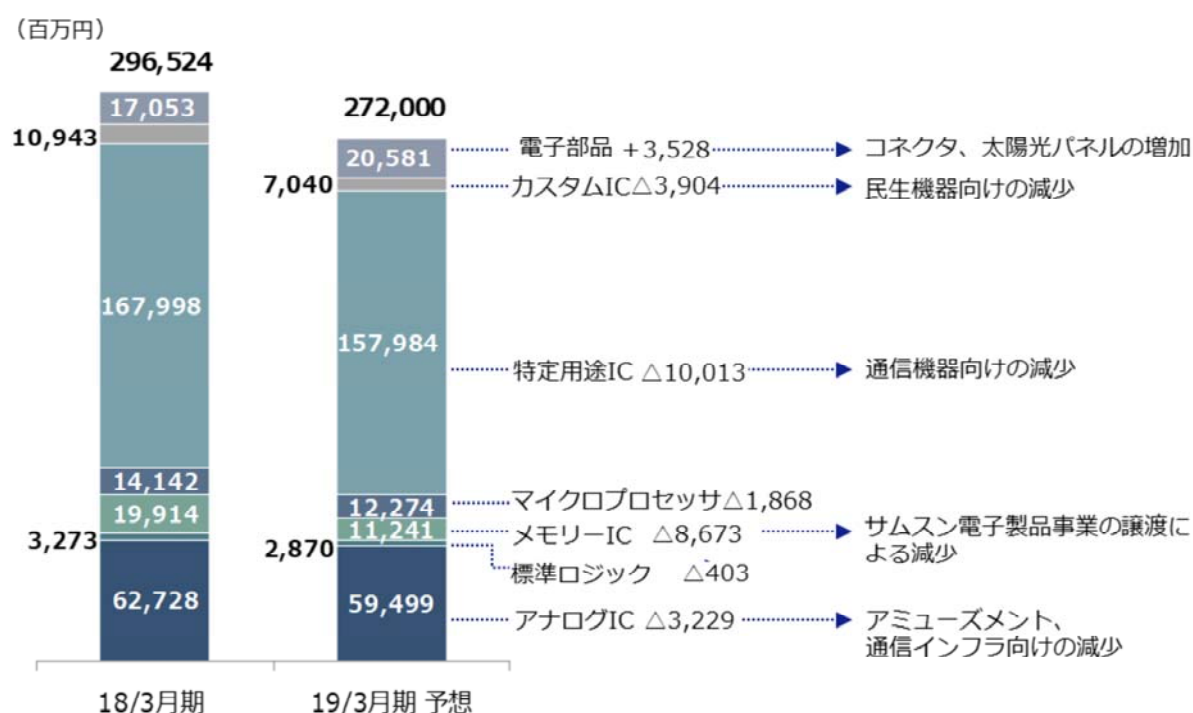
売上高は、前期比6.5%減の3,250億円となる見込みです。これは、期初予想の3,150億円からは100億円、3.2%の上振れとなります。

経常利益は、上期に計上した為替差損の影響や支払利息の増加などにより、前期比18.2%減の34億円となる見通しです。これは期初予想より8.5億円、19.8%の下振れとなります。

2019年3月期 業績予想サマリ

(百万円)	18/3月期		19/3月期予想			前期比		期初予想比
	実績	構成比	期初予想	修正予想	構成比	増減額	増減率	増減額
売上高	347,508	100.0%	315,000	325,000	100.0%	△ 22,508	-6.5%	10,000
デバイス事業	296,524	85.3%	262,500	272,000	83.7%	△ 24,524	-8.3%	9,500
システム事業	50,983	14.7%	52,500	53,000	16.3%	2,017	4.0%	500
売上総利益	21,161	6.1%	22,500	23,300	7.2%	2,139	10.1%	800
販管費	17,390	5.0%	17,800	17,500	5.4%	110	0.6%	△ 300
営業利益	3,771	1.1%	4,700	5,800	1.8%	2,029	53.8%	1,100
営業外収益	1,773	0.5%	550	550	0.2%	△ 1,223	-69.0%	0
営業外費用	1,327	0.4%	950	2,900	0.9%	1,573	118.5%	1,950
経常利益	4,218	1.2%	4,300	3,450	1.1%	△ 768	-18.2%	△ 850
特別利益	6	0.0%	-	25	-	19	-	25
特別損失	311	0.1%	-	25	-	△ 286	-	25
親会社株主に帰属 する当期純利益	2,077	0.6%	2,500	1,800	0.6%	△ 277	-13.3%	△ 700

2019年3月期『デバイス事業』品目別売上高予想



MARUBUN CORPORATION

© 2018 MARUBUN CORPORATION 25

売上の増減要因について品目別にご説明します。

デバイス事業は前年度の2,965 億円から245億円、8.3%減の2,720 億円となる見込みです。これは期初予想の2,625億円からは95億円、3.6%の上積みとなります。

アナログICは、アミューズメントや通信インフラ向けの減少を見込んでいます。

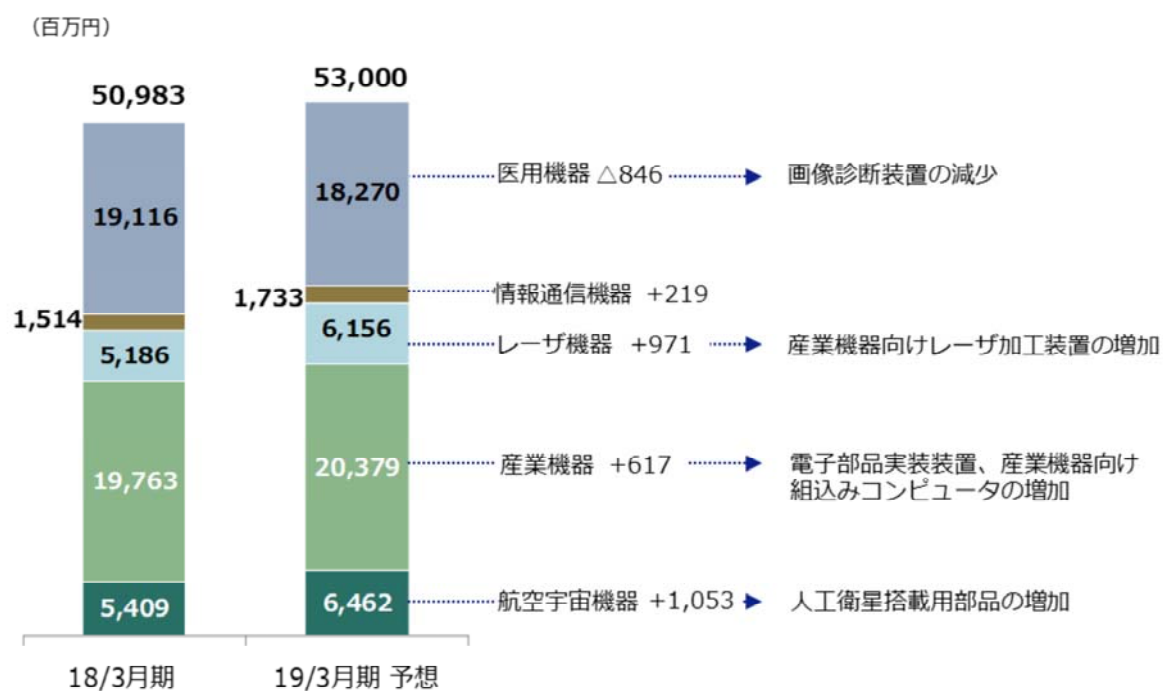
メモリーICの減少は、サムスン電子製品を扱っていた丸文セミコンの事業を譲渡したことによるものです。

特定用途ICは、通信機器向けが前年対比では減少しますが、期初予想比では大幅に増加する見通しです。

カスタムICの減少は、民生機器向けの減少を見込むことによるものです。

電子部品は、産業機器向けコネクタの増加を見込んでいます。

2019年3月期『システム事業』品目別売上高予想



MARUBUN CORPORATION

© 2018 MARUBUN CORPORATION 26

システム事業については、前年度の509億円から530億円へと20億円、4%の増加を見込んでおります。これは期初の予想通りの数値となっています。

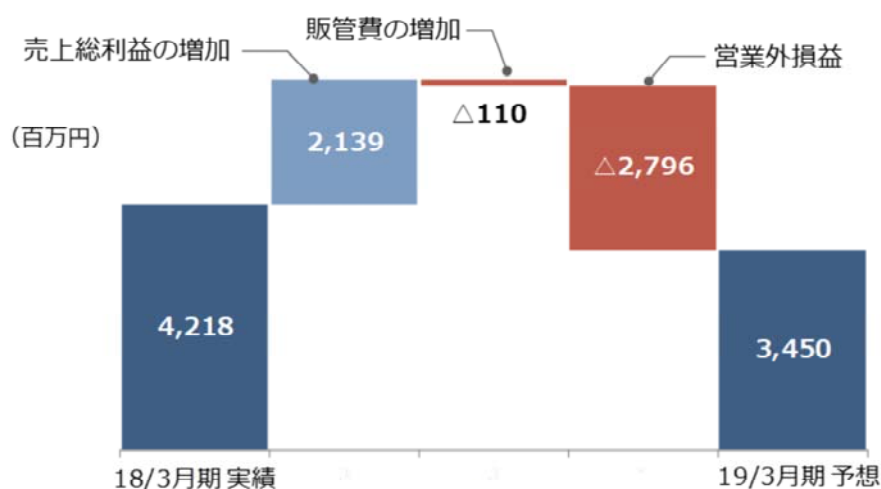
航空宇宙機器は、上期に引き続き人工衛星搭載用部品の増加を見込んでいます。

産業機器も、上期好調だった電子部品実装装置や産業機器組込用コンピュータの増加を見込んでいます。

レーザ機器は、産業向けレーザ加工装置の増加を見込んでいます。

一方、医用機器は画像診断装置が減少する見通しです。

経常利益の増減要因（前期 vs. 予想）



売上総利益	前年度末計上の在庫評価損の戻し入れ、今年度期初からの円安による差益増加 18/3月期：211億円(利益率6.1%) → 19/3月期予想：233億円(7.2%)
販管費	前年度並み 18/3月期：174億円 → 19/3月期予想：175億円
営業外損益	為替差損益 18/3月期：為替差益11億円 → 19/3月期予想：上期に差損16億円を計上

経常利益の増減要因についてご説明します。

売上総利益については、前年度末に計上した在庫評価損の戻し入れに加え、今年度期初からの円安進行による外貨建て取引の差益増加により21億円の増加を見込んでいます。

販管費は、上期は増加しましたが、下期は連結子会社の事業譲渡などにより、1億円増の微増にとどまる見通しです。

営業外費用では、上期に計上した為替差損16億円に加え、支払利息の増加を見込んでおります。

この結果、経常利益は7億円減少の34億円を予想しています。

株主還元

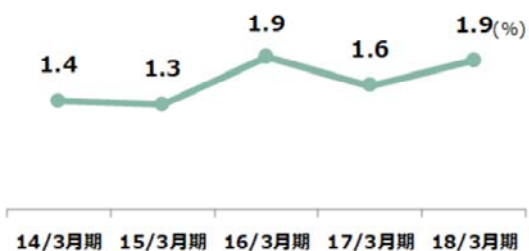
© 2018 MARUBUN CORPORATION

株主還元

■ 配当方針

配当性向 連結30%以上

■ DOE(株主資本配当率)の推移



■ 配当予想

(円)	18/3月期	19/3月期 (予想)
1株当たり年間配当金	30.00	30.00
中間配当	10.00	10.00
期末配当	20.00 (記念配当5円含む)	20.00

株主還元についてですが、当社は、連結配当性向30%以上目安として配当を決定しています。

今年度は期初の計画通り、中間配当10円、期末配当20円、合わせて年間で30円を予定しています。

参考情報

© 2018 MARUBUN CORPORATION

企業概況

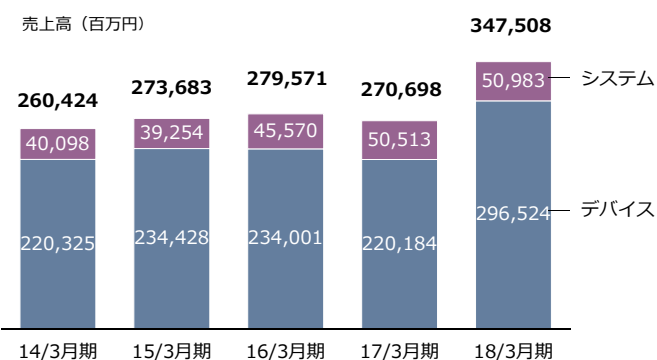
会社概要

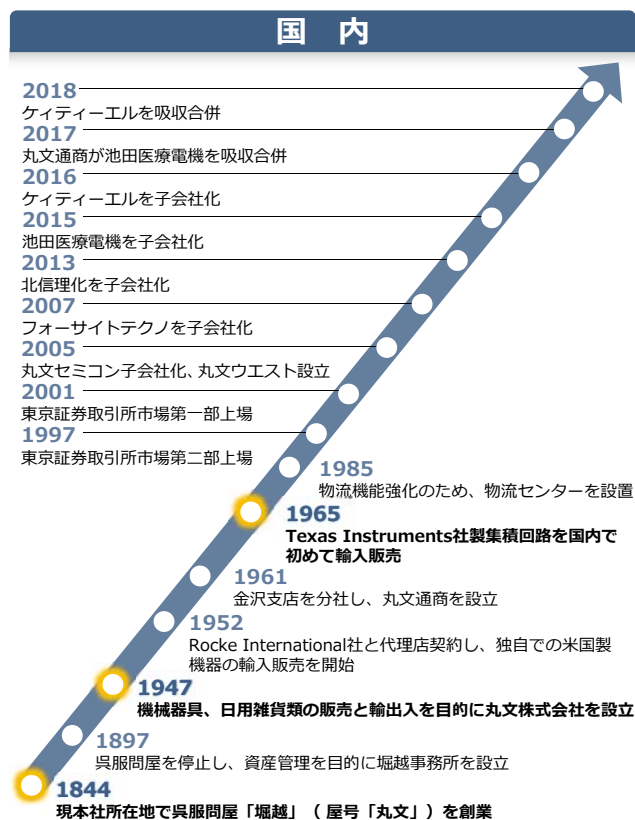
創 業	1844年（弘化元年）
設 立	1947年（昭和22年）7月
所 在 地	東京都中央区日本橋大伝馬町8番1号
資 本 金	62億1,450万円
決算期日	3月31日
代 表 者	代表取締役社長 水野象司
売 上 高	連結 3,475億円（2018年3月期） 単体 2,278億円（2018年3月期）
従業員数	連結 1,381名（2018年3月末） 単体 670名（2018年3月末）
株式上場	東京証券取引所 市場第一部（コード:7537）

事業領域

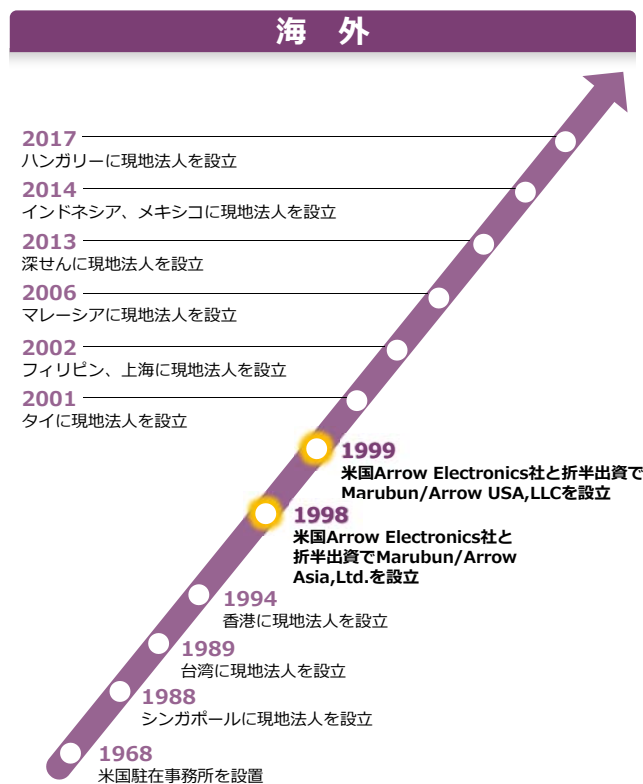
デバイス事業	システム事業
■ 半導体 ■ 電子部品	■ 航空宇宙機器 ■ 産業機器 ■ レーザ機器 ■ 情報通信機器 ■ 医用機器

連結売上高の推移





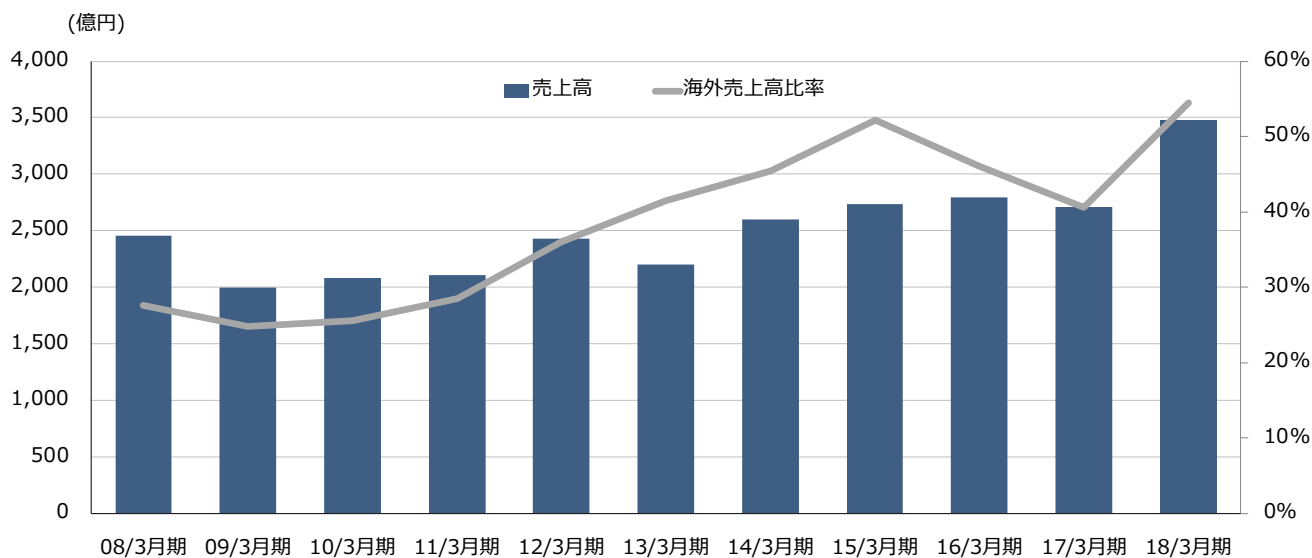
MARUBUN CORPORATION



© 2018 MARUBUN CORPORATION

32

中長期トレンド（売上高・海外売上高比率）

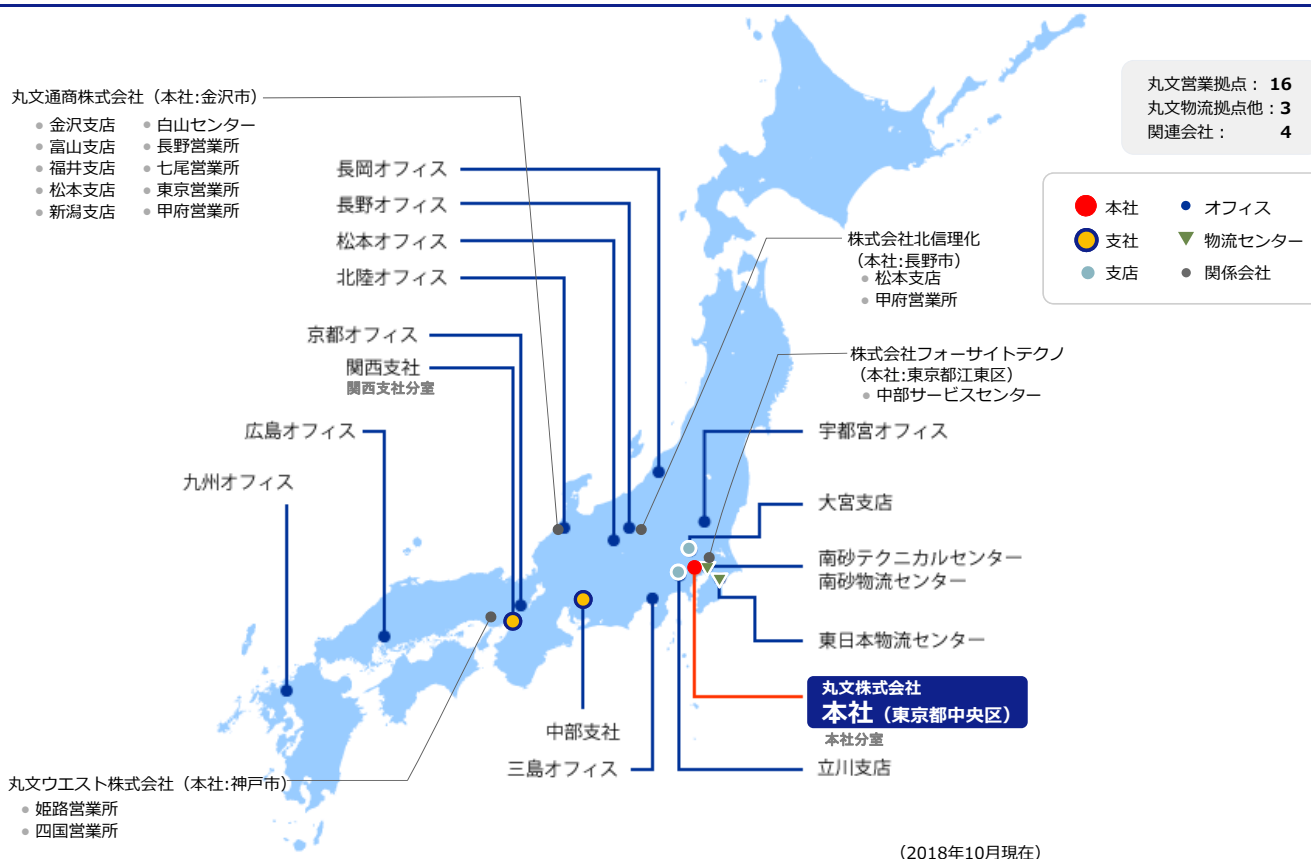


MARUBUN CORPORATION

© 2018 MARUBUN CORPORATION

33

国内拠点

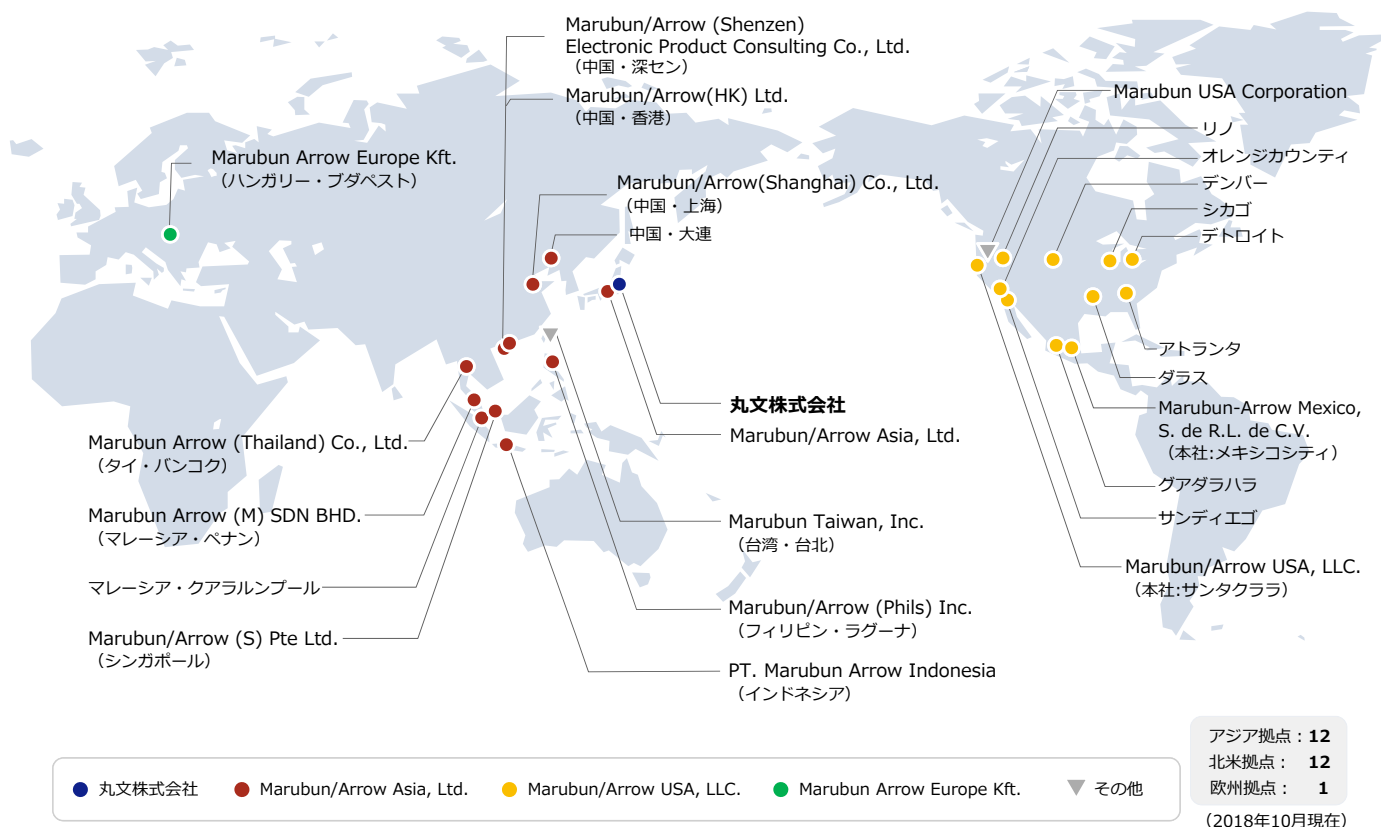


MARUBUN CORPORATION

© 2018 MARUBUN CORPORATION

34

グローバルネットワーク



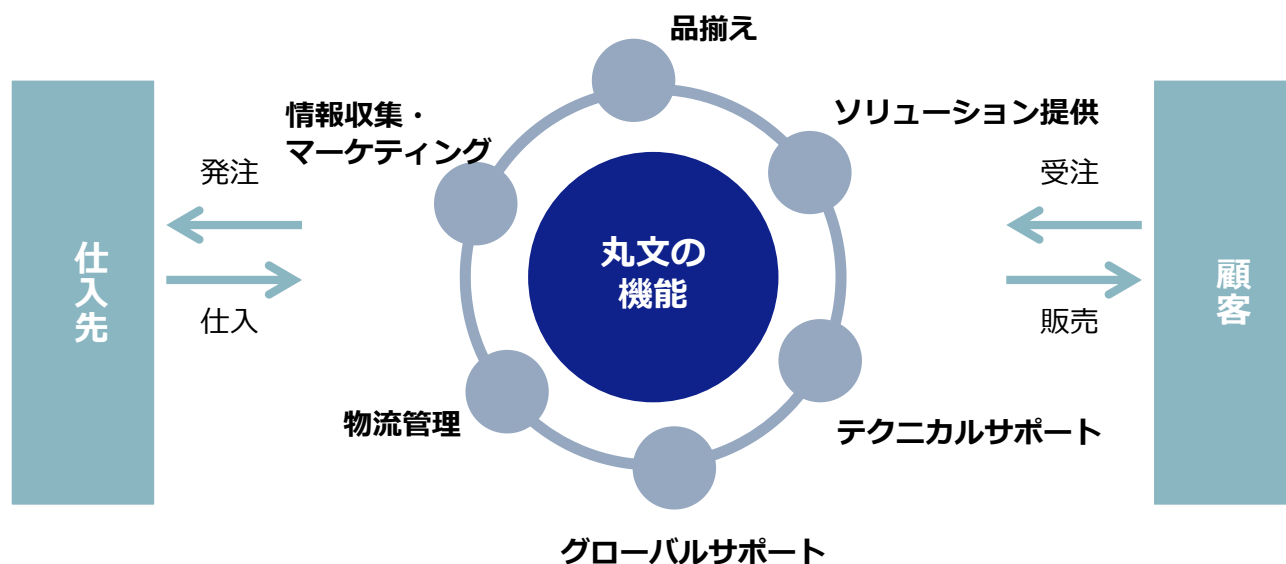
MARUBUN CORPORATION

© 2018 MARUBUN CORPORATION

35

デバイス事業：特徴と強み

- 海外サプライヤを中心とした豊富な品揃え
- 米国アロー社(80ヶ国、345拠点)との提携によるグローバルネットワーク
- 高度な技術力をもとにしたソリューション提案力
- 強固な顧客基盤



デバイス事業：グループ会社概要

社 名	住 所	設立年月	出費比率	事 業 内 容
Marubun USA Corporation	California, U.S.A.	1983年10月	100%	丸文アローUSAの持株会社
Marubun Taiwan, Inc.	Taipei, Taiwan	1989年11月	100%	台湾製デバイスの仕入販売
Marubun/Arrow Asia, Ltd.	British Virgin Islands	1998年10月	50%	海外進出した日系企業への 半導体・電子部品の仕入販売
Marubun/Arrow (S) Pte Ltd.	Anson Road, Singapore	1988年3月	50%	
Marubun/Arrow (HK) Ltd.	Hong Kong, China	1994年8月	50%	
Marubun Arrow (Thailand) Co., Ltd.	Bangkok, Thailand	2000年10月	50%	
Marubun/Arrow (Phils), Inc.	Laguna, Philippines	2001年10月	50%	
Marubun Arrow (M) SDN BHD	Penang, Malaysia	2006年6月	50%	
Marubun/Arrow (Shanghai) Co., Ltd.	Shanghai, China	2002年9月	50%	
Marubun/Arrow (Shenzhen) Electronic Product Consulting Co., Ltd.	Shenzhen, China	2013年6月	50%	
PT. Marubun Arrow Indonesia	Jakarta, Indonesia	2014年4月	50%	
Marubun/Arrow USA, LLC*	Delaware, U.S.A.	1998年11月	50%	
Marubun-Arrow Mexico, S. de R.L. de C.V.*	MexicoCity, MEXICO	2014年9月	50%	
Marubun Arrow Europe Kft.*	Budapest, Hungary	2017年11月	50%	

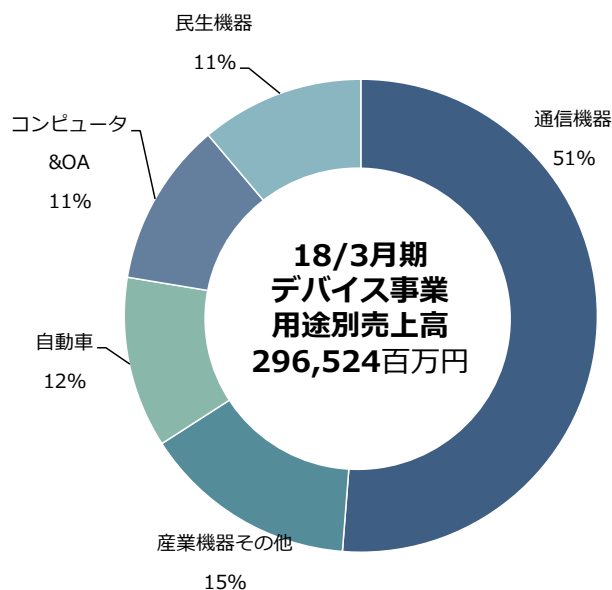
* Marubun/Arrow USA、Marubun-Arrow Mexico、Marubun Arrow Europe Kft.は持分法適用の関連会社です。

デバイス事業：取扱製品（サプライヤ別）

		サプライヤ（アルファベット順）															
		旭化成 エレクトロニクス	エイブリック	Broadcom (米国)	Cypress (米国)	Eink (台湾)	FINsix (米国)	IDT (米国)	Littlefuse (米国)	Maxim (米国)	Molex (米国)	Qorvo (米国)	SanDisk (米国)	セイコー エプソン	TexasInstruments (米国)	その他	
半 導 体	アナログIC	●	●	●					●	●		●			●	●	
	標準ロジックIC														●		
	メモリーIC	DRAM															●
		フラッシュ												●			●
		その他メモリー		●					●					●			
	マイクロ プロセッサ	MPU、MCU													●	●	●
		DSP	●													●	●
	特定用途IC	ASSP	●		●	●			●		●		●		●	●	●
		ディスプレイドライバ													●	●	
		DMD														●	
		LED															●
	カスタムIC	●													●		●
電 子 部 品	表示デバイス					●										●	
	水晶デバイス		●					●						●			
	コネクタ・スイッチ・プリント基板										●					●	
	モジュール製品						●									●	

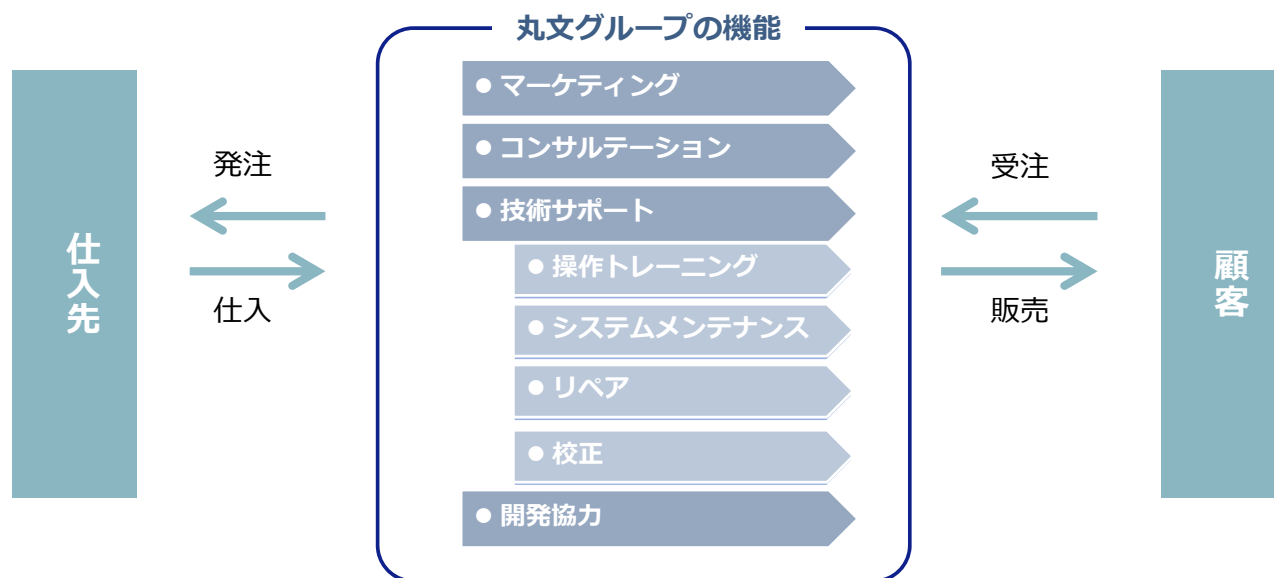
デバイス事業：主要取扱い製品（用途別）

		通 信 機 器	コ ン ピ ユ ー タ	産 業 機 器	自 動 車	民 生 機 器
半導体						
アナログIC	アナログ	●	●	●	●	●
	ディスクリート	●		●	●	●
標準ロジックIC		●	●	●	●	●
メモリーIC	DRAM	●	●		●	●
	フラッシュ	●	●			●
マイクロ プロセッサ	MPU、MCU	●	●	●	●	●
	DSP	●		●	●	●
特定用途IC	ASSP	●			●	●
	ディスプレイドライバ	●	●		●	●
	DMD	●	●	●	●	●
	LED	●	●			●
カスタムIC		●	●		●	●
電子部品						
表示デバイス		●	●	●	●	●
水晶デバイス		●		●	●	●
コネクタ・スイッチ・プリント基板		●				●
モジュール製品			●		●	●



システム事業：特徴と強み

- ハイエンド市場で、技術優位性の高い電子機器・部品を提供
- システム提案から据え付け保守まで、一貫した高レベルの技術サポート

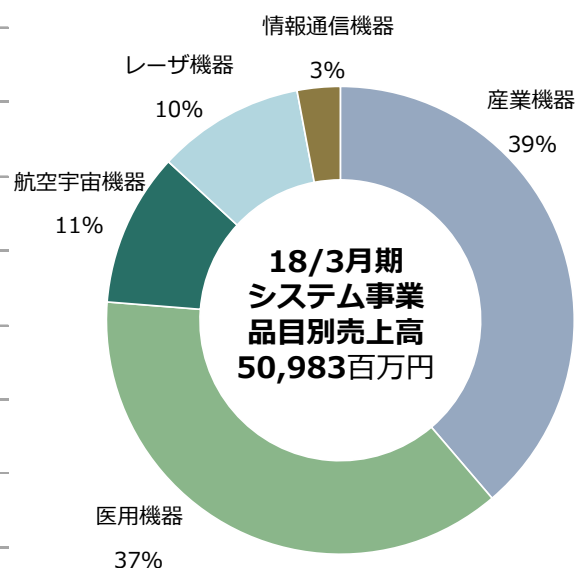


システム事業：グループ会社概要

社 名	本 社	設立年月	出費比率	事 業 内 容
丸文通商株式会社	石川県金沢市	1961年3月	100%	医用機器および試験計測機器の仕入販売・修理・メンテナンス
丸文ウエスト株式会社	兵庫県神戸市	2005年5月	100%	試験計測機器の仕入販売
株式会社北信理化	長野県長野市	1951年11月	100%	試験計測機器の仕入販売
株式会社フォーサイトテクノ	東京都江東区	1999年3月	51%	システム製品の修理・メンテナンス、エンジニアリングサービス

システム事業：主要取扱い製品①

分野	主要取扱商品	主要仕入先
産業機器	検査装置	ユニハイトシステム、FEI、島津製作所、アキム、セイコーエプソン
	組立・検査装置	
	組込ソリューション 科学機器	ARTESYN、Aitech、ADLINK、LayTec、Riber
医用機器	画像診断機器	シーメンス、島津製作所、コニカミノルタヘルスケア
	人工透析機器	日機装、旭化成メディカル、カネカメディックス
レーザ機器	半導体レーザ レーザ加工機	nLight、Laserline
	光機器	Excelitas Technologies、Luminus Devices、First Sensor
航空宇宙機器	宇宙関連機器	Tele Communication Systems、GEセンシング、Meggit、Plascore
	計測・センサ	
	航空関連機器 高周波電子機器	TEXTRON、L3 Technologies、CPI、Bird
情報通信機器	RF・光通信 測位タイミング	PCTEL、Finisar、EXFO、Microsemi、Calnex、Spirent



システム事業：主要取扱い製品②

航空宇宙機器



BEI Sensors社
高信頼性部品



CPI社
マイクロ波電子管

産業機器



島津製作所
ガスクロマトグラフ質量分析計



FEI社
赤外線発熱解析装置



アキム
電子部品組立装置



FUJI
大気圧プラズマ表面改質装置

システム事業：主要取扱い製品③

レーザ機器



nLIGHT社
組込み用半導体レーザ



Laserline社
レーザー加工装置

情報通信機器



Microsemi社
ネットワークタイムサーバー



Spirent社
GNSSシミュレータ

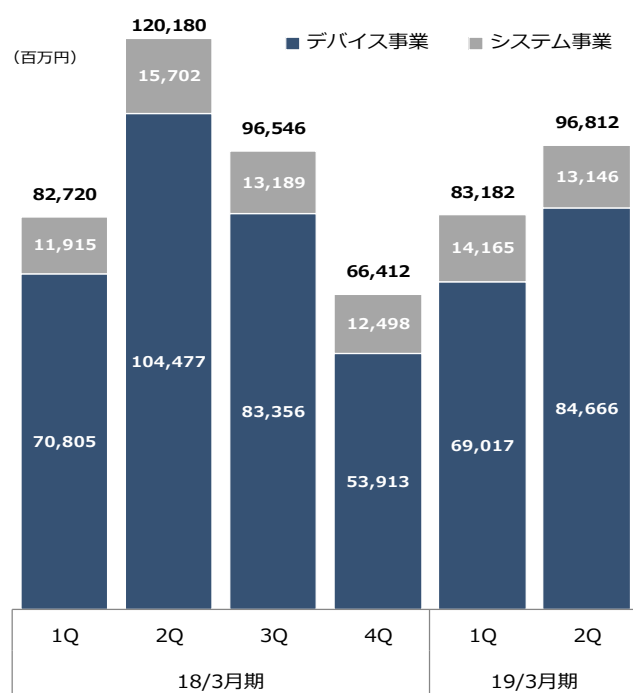
医用機器



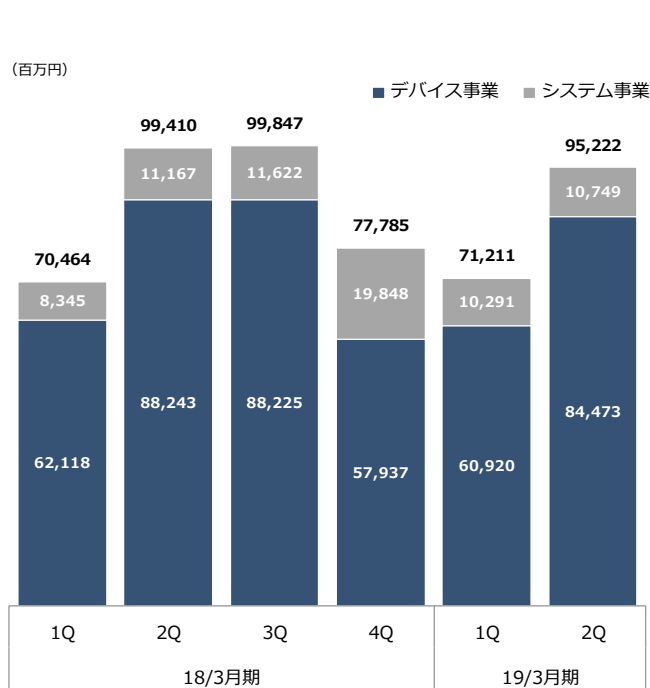
シーメンス・ジャパン社
X線CT装置

業績四半期推移（事業別受注高・事業別売上高）

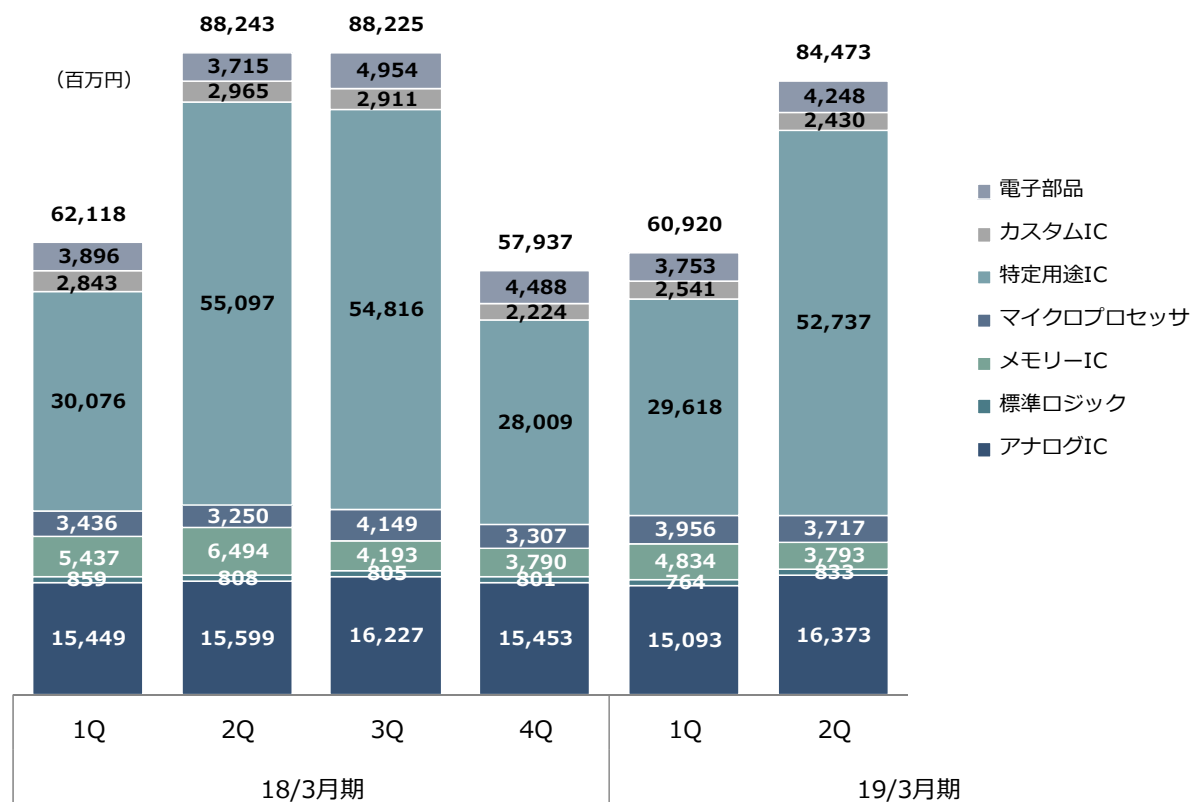
事業別受注高



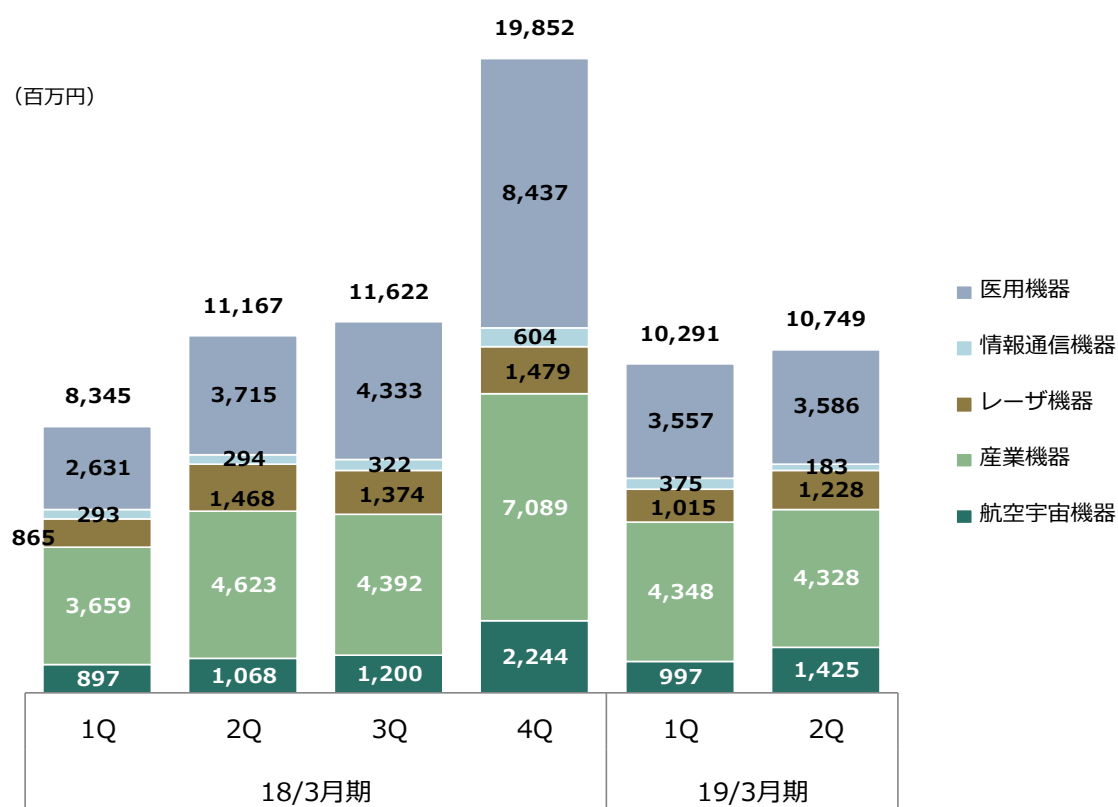
事業別売上高



業績四半期推移（デバイス事業：品目別売上高）



業績四半期推移（システム事業：品目別売上高）



本資料に記載されている業績予想等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な重要な要素により異なる可能性がありますことをご承知おきください。

本資料に関するお問い合わせ

丸文株式会社 経営企画部

TEL 03-3639-3010

E-mail ir@marubun.co.jp